

水で100倍に発泡する

Micro Open Cell Object

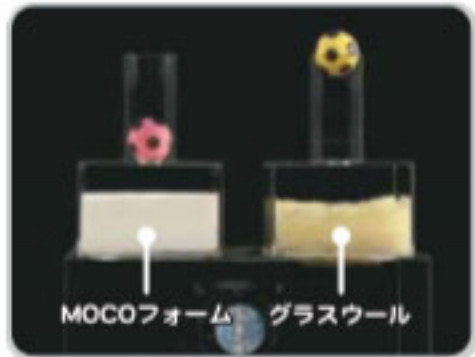
MOCOフォーム

MOCOフォームは、タッカーや接着剤を一切使用せず、躯体に自己接着するので、吹付ける場所を選びません。

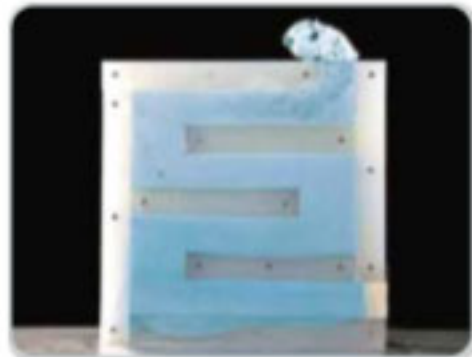


MOCOフォームの気密性と充填性

断熱性能の決め手は気密性と充填性です。隅々までしっかり充填して高い気密効果を発揮するのがMOCOフォームです。



MOCOフォームの気密性能を動画で実感！



MOCOフォームの充填力を動画で実感！



MOCOフォームの特長

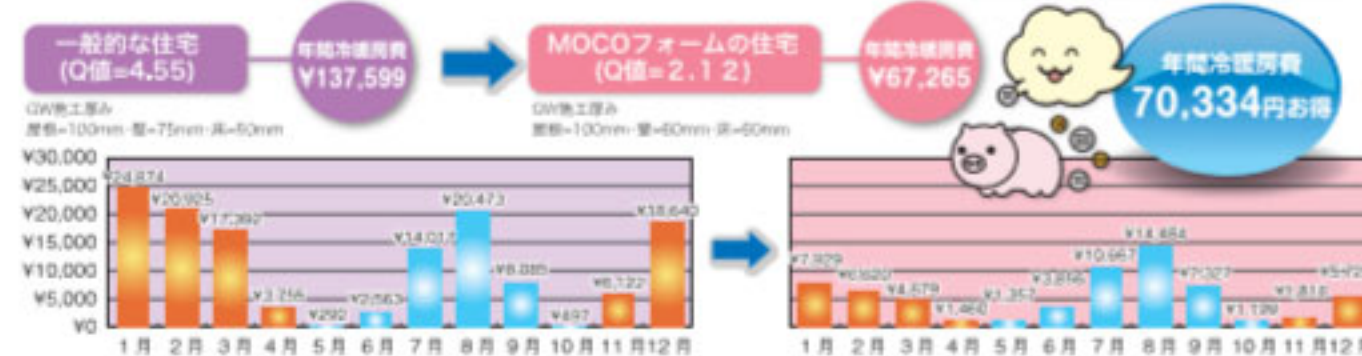
- 優れた断熱効果**
100倍に発泡するミクロの泡が優れた断熱性能を発揮します。
- 断熱欠損を解消**
MOCOフォームは吹付けた瞬間に僅かなすき間も埋めるので、断熱欠損がほとんどありません。
- 他にはない自己接着効果**
躯体と自己接着するので、ズレ落ちや脱落などがなく、長期間に渡って性能を維持します。
- 優れた調湿機能**
湿気を吸いやすい建材ではありませんが、吸ってしまった場合も速やかに放出します。
- 工期短縮**
寸法合わせが不要なため手間が少なく、吹付け施工は30坪ほどの住宅の屋根+壁で1~2日が目安です。

夏は涼しく、冬は暖かい

MOCOフォームなら、すき間のない高断熱、高気密の省エネ住宅を実現できます。たとえば、繊維系断熱材とMOCOフォームを比較した冷暖房負荷計算シミュレーション(地域東京都)グラフ1から、年間冷暖房費を約70,000円節約できることがわかります。またグラフ2のように、外気温に関係なく一日中16.5℃~22℃の安定した室内温度を保てるのがわかります。いつでも快適なうえ、光熱費も節約でき、とても経済的です。

グラフ1 地域(東京都)における冷暖房負荷計算シミュレーション

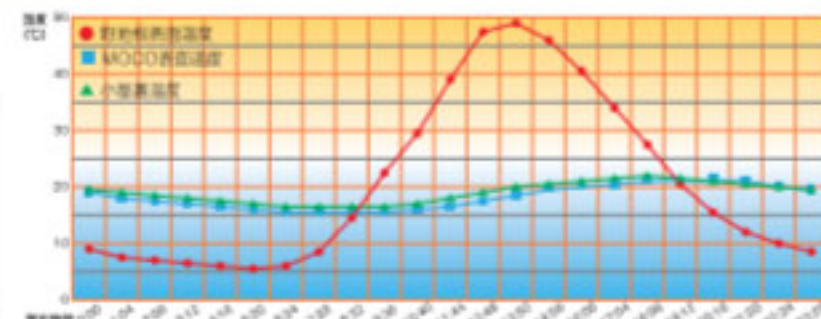
月次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
一般住宅(Q値=4.55)	5.6	6.5	6.8	14.7	17.9	22.2	25.5	26.6	23.7	18.2	13.4	6.5	188.56
MOCO住宅(Q値=2.12)	2.3	2.5	2.7	4.0	4.4	4.2	4.1	4.3	3.0	1.8	2.3	1.5	27.68



グラフ2 小部屋温度推移実測

全住戸内を設定温度にて24時間維持した場合の予測費用です。電気料金は東京電力の価格にて計算。費用算出の外気温は、平均温度ではなく、当該月の最低・最高温度にて計算。
※本計算は、冷暖房費の予測値であり、上記電気料金を保証したものではありません。

2006年4月25日		Q値とは・・・	
天気	晴	熱損失係数	一般に「Q値」といいます。住宅の断熱性能を数値的に表し、値が小さいほど断熱性能が高いことを示します。
最高気温	14.00 15.5℃		
最低気温	6.00 8.0℃		
断熱材表面温度	13.52 49.0℃		
MOCO表面最高温度	18.08 21.0℃		
小部屋(室内)最高温度	18.08 22.0℃		
MOCO=100mm施工で室温維持...27℃! 測定機能データログ			



施工例



商品名		MOCOフォーム			
JISA9526分類		建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームA種3			
発泡剤		水(二酸化炭素)			
断熱材種別ランク		C			
測定項目		物性値	JIS規格値	参考値*	
熱伝導率		W/(m・k)	0.038以下	0.040以下	—
燃焼性	時間	sec	120以内	120以内	—
	距離	mm	60以下	60以下	—
透湿率		ng/(m・s・pa)	—	—	19.1
吸放湿量差		g/m ²	—	—	0.2

*参考値としてJIS測定項目以外の測定値の一例を記載しています